

JUST NOW JATS

CHALLENGE FOR THE FUTURE!

2013-03 No.18

TOPICS

- サマースクール2012 1～2面
- 第30回日本呼吸器外科学会 2面
- 第6回理事会ニュース 2～3面
- 呼吸器外科専門医制度改正 3面
- 日本胸部外科女性医師の会 4面
- 若手医師の立場から 4面



特定非営利活動法人 日本胸部外科学会
The Japanese Association for Thoracic Surgery

サマースクール2012

呼吸器外科 心臓血管外科

サマースクール報告

研究・教育委員会
委員長 松居喜郎

2012年度も心臓血管外科、呼吸器外科サマースクールを神奈川県の特モメディカルプラネックスにて開催し、多くの若い諸君が参加し好評のうちに終了いたしました。

心臓血管外科サマースクールは8月25、26日に行い、参加者は105名（医学生50名、研修医55名）で、42名のインストラクターに実習の指導をしていただきました。ウェットラボ実習医学部学生コースは、ASD、CVC閉鎖と大動脈弁置換術を、初期研修医コースは僧帽弁形成術と人工血管・大動脈弁置換術を行いました。懇親会では目隠し手術の出し物などで大いに盛り上がりました。翌日は模擬手術ライブデモとしてブタを用いて、大動脈弁置換・上行置換、OPCABの実際を説明して頂きました。

呼吸器外科サマースクールは7月21、22日に行い、参加者は78名（医学生40名、研修医38名）で、32名のインストラクターに実習の指

導をしていただきました。

アニマルラボは、医学生コースでは開胸、閉胸実習、研修医コースでは肺葉切除を、ティッシュラボは両コースとも摘出心肺ブロックによる肺葉切除を行いました。

た。皮膚縫合や気管支吻合コンテストは大変盛り上がり、懇親会の表彰式では賞品が手渡されました。翌日には同種肺移植のデモンストレーションなどが行われました。

呼吸器外科サマースクール2012

参加者の声

2012年7月21日(土)・22日(日)

うございました。



呼吸器外科サマースクール2012に参加させていただいて、どうもありがと

し、実際に肺葉切除をする

ことができ、とても楽しかったです。

インストラクターの先生に丁寧に解説していただきながら、ブタの肺移植をすぐ近くで見られたり、縫合もさせていただいたり、普段の実習ではなかなか得られない、大変貴重な体験でした。

懇親会や、その後の二次会では、普段あまり交流する機会のない西日本の研修医の先生や、医学生とお話することができ、自分にとって良い刺激になりました。もし来年も開催していただければ、是非参加させていただきます。

どうもありがとうございました。（学生5年生）

■進路として呼吸器外科を考えながらも迷っている際、呼吸器外科学会のホームページを眺め、この呼吸器外科サマースクールの開催を知りました。既に募集締め切りとなっていました。

が、病院実習や大学の講義では経験できなかった肺葉切除実習や肺移植の見学に興味がかき、キャンセル待ちで応募させていただきました。今回、幸運にも参加させていただくことができ、嬉しかったです。ありがとうございました。

ブタの心肺ブロックを用いた肺葉切除実習では、二人ペアとなって肺葉切除を行いました。これまで手術見学をしていても、術者の気持ちを感じることよりも、解剖や手技に注目していましたが、今回術者とな

ることで、二人で協力して作業を行うことの大切さを実感しました。自分の操作にばかり集中していた1回目の切除に比べて、ここを持つた相手はやりやすいかな、そこもつてくれてありがとうなどと思いながら作業を進めた2回目の切除は、断然早い時間で終わりました。

作業をしている間も楽しかったです。結局時間内に3回の肺葉切除を行うことができました。また、実習中は先生方が丁寧に教えて下さり、何の心配もなく操作を進めることができました。優しい口調で教えて下さっていた可愛らしい先生が、お見本を見せてくださる際には、すごい速さで糸結びをして進めていく様子は印象深かったです。

縫合コンテストでは、優勝者の方の「震災があった際に、医学生の自分でも何かできることはないか」と思い、縫合を始めた」というスピーチが心に残りました。医者になってからのことだけではなく、今の医学生の立場で出来ることを考え、行動し、技術を習得してしまふ姿勢に感激しました。閉胸実習では、学生同士で譲り合って、全員が縫合出来るように、術野が見えやすいように、とする雰囲気があり、技術的なことのみでなく、皆で仕事をするために必要な基本的な姿勢も体験できました。手術見学では、先生方の実況中継がわかりやすく面白かったです。そして、移植された肺

が膨らむ様子はきれいでした。最後に行われた先生方の講演では、呼吸器外科の仕事の面白さ（臨床も研究も）を知るとともに女性医師として外科を選ぶ不安も解消されました。懇親会も二次会も楽しかったです。

将来への不安が消えるとともに現時点で努力する気力も貰え、とても充実した2日間でした。尊いブタの命、ご指導くださった先生方、スタッフの皆様、そして学生の皆様に心から感謝いたします。（学生6年生）

心臓血管外科サマースクール2012

参加者の声

2012年8月25日(土)・26日(日)



たものであり、外の世界を知らなかった自分を恥ずかしく思いました。今後はこの気持ちをもち帰り、実習に臨んでいきたいと思いました。

最後にご指導くださった先生方に感謝申し上げます。ありがとうございました。（学生5年生）

■ウェットラボが思う存分できてとても楽しかったです。心臓外科医になりたいと思っていましたが、自分ができる技術があるのか一番心配で、今回楽しみでありながらドキドキしてウェットラボに臨みました。

高本先生の「ともに生きる」という言葉には深い感銘を受けました。私自身の人間関係にも参考になる、したい言葉でした。

単身参加で不安でしたが、みなさん温かく接して下さり、とても楽しかったです。ありがとうございました。（学生6年生）

■今回心臓血管外科サマースクールに参加させていただき大変貴重な経験をする事ができました。

自分が最も印象深かったのは1日目のウェットラボで他大学の学生の皆さんが独学で片手結びなどの手技を練習していたことでした。そういった技術への熱意や貪欲さは自分のまわりでは今まであまり見られなかつ

■研修医としての生活がはじまり、日常業務に忙殺される中で、なんとなく最初に持っていたモチベーションが維持することが難しくなっていたこの時期に、このような会に参加できて非常に有意義でした。学生の時、初めて見た心臓手術の時の感動を思い出しました。疲れをおして参加して本当に良かったと思っています。ウェットラボは講師の人数がもう少し多いと良かったかなと感じました。2日間お世話になりました。ありがとうございました。（研修医1年目）

■2日間を通して非常に楽しいサマースクールでした。私は自分の近くに心外に興味がある同期もたくさんはおらず、同じ道を志す人達と話をし勉強することモチベーションもあがり、まわりの人達に負けぬよう今後の研修も気を引き締めて行こうという気持ちになりました。食事会では上の先生方の楽しい姿も見られて非常に良かったです。学生さんもたくさん来ていて頼もしく、また、負けてられないなという気持ちも強く感じました。この2日間でたくさん仲間がいるのだなという気持ちになったのが非常に有意義であつたと思います。（研修医2年目）

■今回、他の方々とは違って心臓血管外科に入学している身分で参加させていだきました。普段、第2、第3助手のポジションで手術を見ているので、なかなか細部まで術中は見ることができません。ですが、ウェットラボでブタの心臓を使つてやることで、術者の目線で見ることができました。また、色々と指導いただきながら手術を行うことができたため、普段術者がどうしているのか、自分の大学でやる以外の手法、方法についても学ぶことができ、とても勉強になりました。ありがとうございました。（研修医3年目）

第30回日本呼吸器外科学会

名古屋市立大学医学研究科腫瘍・免疫外科

藤井 義敬

2013年5月9～10日
名古屋国際会議場で第30回日本呼吸器外科学会を開催します。会員のご参加をお待ち申し上げております。

今回の呼吸器外科学会は少し変わっています。まず会長招宴、評議員懇親会はなく、代わりに名古屋の（B級？）グルメ付き無料の全員懇親会を学会前日に開催します。会場費を徴収しておきながら一部の人の饗応に何百万ものお金を使うのはいかがなものでしょうか。学会の意義の一つは会員の交流、懇親にあります。が、あくまでこの次。また全ての会員に開かれたものであるべきです。今回の会場費は10000円（学生はただ）です。

近年は演題が多く、多くの会場に分散し聞きたい演題が聞けない、という難点があります。今回は原則4会場で運営します。このため一般口演はわずか30題にしばらくしました。いずれもきらりと光る、新しい知見を報告しています。

Poster プラス1 minute presentation が多数あります。このプレゼンテーションは一枚のスライドでたった一分です。でもよく準備

すればかなりのことがしゃべれます。そのあとは名古屋名物手羽先を用意しておりますのでPosterの前でビール片手にDiscussionをして下さい。これが1日目午後です。この半日だけが多数会場になります。ビデオ演題はビデオを見て審査すべきだ、ということとでビデオの応募に際して動画の提出を求めました。この中からお勧めの18題を厳選ビデオとして発表していただきます。いずれも素晴らしいものです。ご期待

ください。
シンポは1. 切除しなくてもよい肺癌はあるか
2. 悪性胸膜中皮腫の治療
3. VATS気胸手術をより確実にする方法
4. 葉切可能な肺癌症例における縮小手術の成績
5. 冠動脈疾患合併肺癌手術の管理です。教育講演は肺癌の分子生物学、CT検査は肺癌死亡を減少させるか、の二つ。ロボット肺葉切除、悪性中皮腫にたいするDecorativeの教育ビデオがあります。

第6回理事会ニュース

日本胸部外科学会第6回理事会

2012年9月12日（水） 13:00～17:00

一、各種委員会報告及び審議事項

（一）理事会報告
本年度の決定事項について報告された。GCSのImpact factor取得が最大の目標であり、会誌編集委員会で集中審議を行っている。

（二）正会員選出委員会
胸部外科関連専門医取得

（三）推薦評議員候補者選

くわしくは学会ホームページをご覧ください（Google検索してください）是非多くの会員の御来名をお待ちし申し上げます。



藤井 義敬
（名古屋市長立大学医学研究科腫瘍・免疫外科）

1975年 大阪大学卒業
1976年 大手前病院外科
1980年 刀根山病院呼吸器外科
1982年 大阪大学第1外科助手
1994年 同講師
1996年 名古屋市長立大学第二外科教授
趣味 音楽鑑賞、リコーダー演奏、（軟派な）山登り
好きな言葉 なし

仮Impact factorを上げるためにcase reportを減少させる必要があり、その分をLetter to the editorのような症例報告にし、計算時の分母論文を小さくする。また、2012年GCS被引用回数ベストワン論文の表彰は廃止し、Instruction for authors (IFA)の変更を行う。
3) Impact Factor 取得に
4) GCSの送本について
現在、冊子体を制作し全会員へ発送しているが、Online GCSを導入し先行して論文の閲覧が可能となり、冊子体の発送を希望者だけにすることも考えられるので、会員に対してアンケート調査（冊子体発送の要・不要）を行う予定である。
5) PCCについて
英文論文の書き方を今秋の定期学術集会PGCの1つとして開催する。また、各地方会においてImpact factorの取得について、役員による説明を行うよう要望された。
6) 総合将来計画委員会
理事長からの今年度の諮問事項について、検討した結果が報告された。地方会との連携においては、Impact factorの取得の件でも連携を深める。更に学術調査を各関

連専門医制度との連携性を深め、専門医あるいは施設の評価の導入にも関連付ける。

（二）政策検討委員会

1) 学術調査結果の公開
2011年12月22日に施設名は特定されないものの、施設ごとの具体的データを公開する記者会見を行った。また、理事会の議を経て「日本胸部外科学会学術調査結果に基づいた手術成績の公開」と「本邦における治療成績評価に関する提言」をホームページに公開した。

（三）日本医学会のあり方

一般社団法人日本医学会への組織、運営に関する構想について役員の意見を回答した。また回答した分科会と日本医学会との臨時協議会には、理事長が出席する。
8) 学術委員会
学術調査結果の公開、2010年学術調査結果、学術調査の解析報告、2011年学術調査結果、食道学会からの申し入れについて報告された。

（九）学術集会委員会

第65回学術集会アンケート内容が承認された。今後学術集会におけるガイドラインを第65回の学会情報を参考に検討する。また、現在は会長直轄の卒後教育セミナーを学術集会と切り離し、委員会が運営する方向とし、研究・教育委員会および国際委員会と検討する。

（十）日本心臓血管外科手術データベース機構

インターネットを介したデータ収集の継続、サイトビジットの継続遂行、National Clinical Database (NCD) 業務との連携、心臓血管外科専門医認定機構への専門医申請業務との連携、入力締切日の

設定・周知徹底のお願い、データ利用状況、本会アンケート調査との協力、業務遂行に対する本会からのさらなる協力要請について報告された。ただ、本会の学術調査とJVSDOがリンクした場合、同意をとっているかいないかで死亡率に差が出るとの発言があった。また、本会の学術調査アンケートは今後も継続する。

(11) 財務委員会

1 平成24年度収支決算報告

経常収入は会費収入（新入会者・継続入会者の増加）および学術研究事業の増収があり3億3218万円、経常支出は3億4033万円、経常収支差額はマイナス814万円、その他収支差額・予備費を含めた当期収支差額はマイナス1782万円、次期繰越収支差額は3億2180万円となったことが報告され、承認された。

2 平成25年度収支予算

経常収入3億1435万円、経常支出3億3166万円、経常収支差額マイナス1730万円、当期収支差額マイナス2980万円、次期繰越収支差額2億9199万円の予算が提案され、承認された。

(12) 倫理・安全管理委員会（横見瀬理事）

1 鑑定医について、会員の倫理的問題による処分の検討、事例調査・検証の調査委員会外部委員推薦、勧告・倫理規範の改訂について報告された。

2 公共機関からの再鑑定依頼は、3人の鑑定医がまとめた報告書を弁護士が確認し、最終的に本理事会で再確認し回答する。

3 医療安全調査機構から各学会に応分の負担金依頼があり、検討の結果、承認された。

(13) 専門医制度委員会

心臓血管外科専門医認定機構の決定事項、呼吸器外科専門医合同委員会、食道外科専門医制度について報告された。また、専門医の在り方に関する検討会についての報告があり、関連する外科関連専門医制度委員会や専門医認定制協議会での検討内容も報告された。厚生労働省主導になつてきているので、学会としては注視していくしかない。

(14) 研究・教育委員会

卒後教育セミナープログラム、若手育成ワークショップについて報告された。本年度のサマースクールについては、呼吸器参加者78名、心臓105名で盛況に終了した。なお、今後どのように進めるか会場の件も含めて、日本呼吸器外科学会及び日本心臓血管外科学会とも相談しながら検討していく。また、卒後教育セミナーのテキストの合本化を前向きに検討する予定である。

(15) 診療問題委員会

外保連の2014年度診療報酬改訂に向けた実務委員会活動スケジュールが報告された。来年秋に厚生労働省によるヒアリングが実施される。

(16) 総務・渉外委員会

理事会ニュース掲載、勤務医師賠償責任保険加入状況、呼吸療法認定士認定試験結果、臨床工学技士国家試験結果、体外循環技術認定士認定試験結果、人工心臓管理技術認定士認定試験結果、学術集会運営会社の選定、職員給与の件について報告された。

(17) 広報（Homepage・

Internet）委員会

HomepageのTopページデザイン、ツリーの見直しを検討する。また、バナー広告の取り扱いに関して再検討を行い、原則として医療に関する職種とし、問題がある場合はその都度委員会で検討する。

(18) 処遇改善委員会

2011年1月の心臓血管外科専門医認定機構による認定修練施設の修練責任者を対象の処遇改善アンケート調査結果、2010年の診療報酬改訂で手術手技料の増額が認められたのを受けた2011年3月の日本外科学会アンケート調査結果、2012年1月の心臓血管外科修練医を対象としたアンケート調査、第65回定期学術集会以特別企画「医師の処遇改善ワークショップ」を開催予定であることが報告された。

(19) チーム医療推進委員会

昨年11月に看護師特定能力認証制度骨子（案）を提出、12月看護師特定能力認証制度を了承し、特定医行為の分類、選定が承認され、教育カリキュラム案（2年修士課程コース、8カ月過程コース）が討議されたこと、医師会側が国家資格とすることに反対している理由は、階層（ランク）付けになることが報告された。なお、特定医行為分類及び教育内容等基準案についてのパブリックコメントは、天野理事と前原監事で学会としての意見をまとめ、回答する。

(20) 国際委員会

現在、CTSNetの契約金は約2,000ドル（Organization supports fee、member support）となつているが、CTSNetのシステムが大幅に変更されるので、負担金が増

額されることが報告された。本件は具体的な金額が提示されてから再検討することになった。

(21) COI委員会

利益相反に関する指針・指針運用規則・様式の英語版を作成しホームページに掲載した。また、他学会からの依頼により情報を提供した。

(22) 第64回定期学術集会

2011年10月10日（月）12日（水）に開催された第64回定期学術集会について報告された。

(23) 補助人工心臓治療関連学会協議会

2012年は3回の協議会が開催され、植込型補助人工心臓実施施設・実施医認定、非拍動流植込型MAD保険償還改訂報告、Dura Heartトライブライン断線トラブル等に対する対策、小児の治療が開始されていることなどが報告された。

2012年は3回の協議会が開催され、植込型補助人工心臓実施施設・実施医認定、非拍動流植込型MAD保険償還改訂報告、Dura Heartトライブライン断線トラブル等に対する対策、小児の治療が開始されていることなどが報告された。

(24) 心臓移植関連学会協議会

循環器内科系の人が多く、規約を作成したいとのことで外科系の意見を要望したことが報告された。なお、本会からは委員は理事長と幹事1名である。

二、第65回定期学術集会

最新の収支計算書（1億7000万円の予算）が提出された。特別企画として、「専門医制度の現状と将来」、会長講演は最終日、演題は「トピックスの多い採択率は57%である」。

三、その他

(1) コンテグラ使用基準管理委員会

施設基準、医師基準、委員会規則、予算使用、今後の見通しと課題、今後の予定を検討する。

呼吸器外科専門医制度改正のお知らせ

2013年5月、第30回日本呼吸器外科学会定期評議員会を経て、総会にて呼吸器外科専門医制度規則・施行細則に下記の変更を決定する予定です。

改正内容

外科専門医である者のみが呼吸器外科専門医の新規申請および更新申請ができる、と変更されます。

●呼吸器外科専門医制度規則

- 第2章専門医の認定 第2条（申請資格）
2「外科専門医あるいは日本外科学会認定医であること」は
2「外科専門医であること」と変更されます。

●呼吸器外科専門医制度施行細則

- 第1章（専門医の申請） 第1条（専門医新規申請）
4. 「外科専門医認定証（写）あるいは日本外科学会認定医認定証（写）」は
4. 「外科専門医認定証（写）」と変更されます。
- 第2条（専門医更新申請） 1.
(2) 「呼吸器外科専門医であり、かつ外科専門医あるいは日本外科学会認定医であること.」は
(2) 「呼吸器外科専門医であり、かつ外科専門医であること.」と変更されます。
- 第2条（専門医更新申請） 3.
(3) 「外科専門医認定証（写）もしくは日本外科学会認定医認定証（写）」は
(3) 「外科専門医認定証（写）」と変更されます。

適用について

2013年度申請者より適用する。

改正理由

呼吸器外科専門医は建物でいえば2階に相当し、サブスペシャリティ専門医として位置付けられています。関連学会との合意により、1階相当の資格は更新制のある資格が必須となったことから、これまで有効としてきた更新制がない日本外科学会認定医（終身）は認められないため削除しました。

なお、日本外科学会認定医（終身）は呼吸器外科専門医を含む内科系・外科系すべてのサブスペシャリティ専門医の1階相当の資格とは認められないことを追記します。

2012年12月1日

呼吸器外科専門医合同委員会
委員長 千原 幸司

(2) 日本循環器学会からの治療機器の使用要件等への委員推薦
日本循環器学会が代表して「ニーズの高い医療機器等

の早期導入に関する検討会」に要望書の提出をしている「Impella」について、ワーキンググループに本会から理事1名を推薦する。

正会員申請について

2013年4月30日（火）	正会員申請締め切り日
2013年6月15日（土）まで	委員会による審査かつ結果を理事会に報告
2013年6月20日（木）まで	不合格者への結果連絡
2013年7月1日（月）まで	不合格者からの異議申し立て
2013年7月16日（火）まで	異議申し立て者に結果を通知
2013年8月1日（木）まで	合格者に正会員委嘱通知

（申請条件等は学会ホームページをご覧ください。）



奥に長女、手前が次女

学会託児所を 利用して

第65回日本胸部外科学会では10月19日、20日と学会託児所を利用していただきありがとうございました。

そもそも女性医師の会に井千秋先生が講師として来られると知り、ミ－ハー根性で学会行きを決めました。初日は3歳の長女と7ヶ月の次女を引き連れ自宅から博多に行き、学会用のリムジンバスに乗り会場に直行しました。とりあえず重い荷物(娘2人)を託児所に預けに行くと、静かな宴会場にたどり着き、我々の足音を聞き中から先生が出てきてくださいました。一通り日頃の様子を伝え子供たちを預けると、次女はやはり泣いていましたが(そこで写真を1枚)、親はドライに去っていきました。前日は何人かお子さんが預けられていたそうですが、19日、20日は我が子のみだったようで専属で付き添ってくださいました。途中一度次女に授乳をして、後は懂れの向井千秋先生

日本胸部外科女性医師の会 (WTS in Japan)

の隣に座り、サインまで頂きました。次女はまだ保育園に行き始め間もない時期でしたので、日頃は昼寝も30分くらいしかしないのですが、とても静かな部屋で2時間ほどぐっすり寝たとのことでした。

今や私にとっては託児所の有無が学会参加の条件になってしまいましたが、学会場に

託児所があると、まず何より安心で、学会に参加できる時間も増えますので、有難く利用させていただいています。まだまだ利用者は少ないようですが、今後とも続けていた

最後にりましたが、今度のは会長の藤田博正先生とその他の奥様の多大なお計らいにより、ホスピタリティに満ちあふれた学会であったことに深く御礼申し上げます。お陰様で帰りの子供のリュックは学会で頂いたたくさんのお土産でいっぱいでした。

若手医師の立場から

専門医を取得されている、もしくは取得を目指す若手の先生方に、日々感じていること、将来の目標などを語っていただきました。

食道外科医 として、 女性として



私は医師となり9年が経ちました。消化器外科へ入局した当初は5年後10年後の自分はあまり想像できず、また女性であるということから様々な苦難があるのではないかと想像していました。そういった想像をよそに入局後さまざまな症例、手術を経験させていただくようになり、現在では、完遂はできないものの食道手術も執刀させていただけ

医療系だけでなく働く女性には、基本的に働くことを中心にできる男性と比べて様々な生き方があるため悩みが生じてきます。キャリアを積むことに加え、結婚、妊娠、出産、育児など。理想を求めれ

くことを選び、現在は修練の日々が続いています。何年たっても、学ぶべきことや他職種の方を含めたくさんの方から教えていただくことも絶えません。

10年目を迎える今年はさら

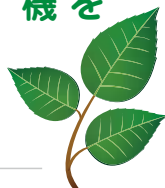
ばいくらでも望めますが、すべてを選ぶすべて望むとありに進めることは非常に難しいのが現状です。環境が整わず断念せざるを得ないこともありますが、やはり外科医を選

松本 理恵
(国家公務員共済組合連合会呉共済病院呼吸器外科)

2001年3月 広島大学医学部卒業
2001年4月 同大学附属病院、県立広島病院にて臨床研修
2002年10月 広島大学医学部第二外科入局
2007年10月 北海道がんセンター呼吸器外科レジデント
2008年10月 出産、育児のため休職
2010年4月 現職

趣味：物産展めぐり 好きな言葉：一期一会

胸部外科を 選んだ動機



私が胸部外科を選んだ動機を書かせて頂きます。

私は学生時代に大学の学生寮(北大恵迪寮)に所属した。寮は大人がいない自治寮で全学部の学生がおり、大変活気がありました。私は経済的な理由でやむなく入寮した訳ですが、入ってみると常に周りに熱い仲間がいて、夜中まで大騒ぎし、非常に楽しく学生時代を過ごせました。

そして卒業後、専攻科を決定せずに臨んだ初期研修ではどの科もあまり楽しくなく、そういう自分の状況に後ろめたい思いのある研修医生活を送っていました。そんな時、心臓血管外科の先生が非常に楽しそうに仕事をしているのに出会いました。心に響くものがあり、予定を急遽変更して研修させてもらいました。恐

れもありましたが実際に中に飛び込んでみると、治療の達成感、手術室・病棟・ICUなど治療チームの一体感が私をとらえて離しませんでした。また臨時手術となると夜遅くともお祭り騒ぎとなり、まさにこれは学生寮で味わった夜中まで大騒ぎする楽しさと似ていました。そして何より、心臓血管外科医は「外科

編集後記

本学会の研究・教育委員会主催のサマースクールは、医学部学生・初期臨床研修医を対象に、ウェットラボやアニマルラボを通して胸部外科の魅力を実際に体験したり、全国から集まった同志や先輩外科医と交流を図れる企画ですが、二回目の今年度も好評裏に終わったことが報告されました。関係諸氏のご努力に敬意を表します。4Kなどど揶揄され志望者が減少している外科の中でも、特に過酷な就労環境を強いられることが多い胸部外科領域を目指している学生や若手医師の熱い体験談には心が打たれました。

若い彼らのモチベーションを如何に維持させてあげるかは我々先輩医師の最大の課題であり義務です。ある世界的な人材紹介会社の調査によれば、社員が辞めなくなる原因は、マネージメントへの不満35%、昇進のチャンスが限られている33%、正当に評価されない13%、給与が不十分13%、仕事が退屈1%の順だったそうです。意外なことに、社員がやりがいを感じるためには、魅力的な給与より大切な要素がある。すなわち、称賛(Kudos)、信頼(empowerment)、昂揚(excitement)、昇進(promotion)という4つの要因が挙げられ、なんと頭文字を並べるとJATS(定着)になる！我が国にも古来似たような名言があります。「やってみて、言ってみて聞かせて、やらせてみて、ほめてやらねば人は動かじ。山本五十八」

広報委員会副委員長 角秀秋

訂正とお詫び

Newsletter No.17(1月10日発行)第3面「日本胸部外科女性医師の会」の齋藤綾先生のプロフィールから出身大学が抜けておりまして、「横浜市立大学」となりますので、ここに訂正し、お詫び申し上げます。

追悼

2012年8月18日～2013年1月11日まで届け出をいただいた逝去者一覧

康 義治	2012/6/25
太田 喜義	2012/8/17
早田 義博	2012/8/22
石原 恒夫	2012/8/25
秋山 洋 (虎の門病院)	2012/9/19
増田 浩一	2012/12/10
久留 幸男	2012 不明
島倉 唯行	2012 不明



関 達也
(北海道大学循環器・呼吸器外科)
出身大学 北海道大学
経歴 手稲溪仁会病院、北海道大学病院
趣味：NBA観賞
好きな言葉：健康